

■ 1班 課題1 多様な主体の意見把握・反映

アンケート

直接的な意見ではなく、小中学校に求めるもの（楽しみ）についてアンケートを取る

転校に対する考え、気持ち

子どもの意見・考えをアンケートで聞く

小学生は寂しいかも
大人が責任を持つ

発信方法

アンケート調査（事前）

将来の学校数をイメージできる
形での具体的説明
（税負担など）

同意見多数

体制

【事務局】
プランを作る人

公募委員のメンバー
に偏りがある

誰がいつ決めるのか
どこまで開示できるのか
プロセスを整理する

【マネジメント】
会議を開く人

自分たちに関与
させる
（決めさせる）

PTA会議は学校の保護者の
総意を代表していない

説明、関わり方

事務局が
説明不足

反発、不安
自分が関与していない、
納得されていない

■ 1班 課題2 望ましい学校規模と教育環境

教育方法

都会と変わらない
教育と機会

小中一貫校に
よる教育

体験学習の
充実

自分たちで知恵を絞り
汗をかいて築く

クラス人数

30名/組

競争勝負も必要
2クラス/学年以上

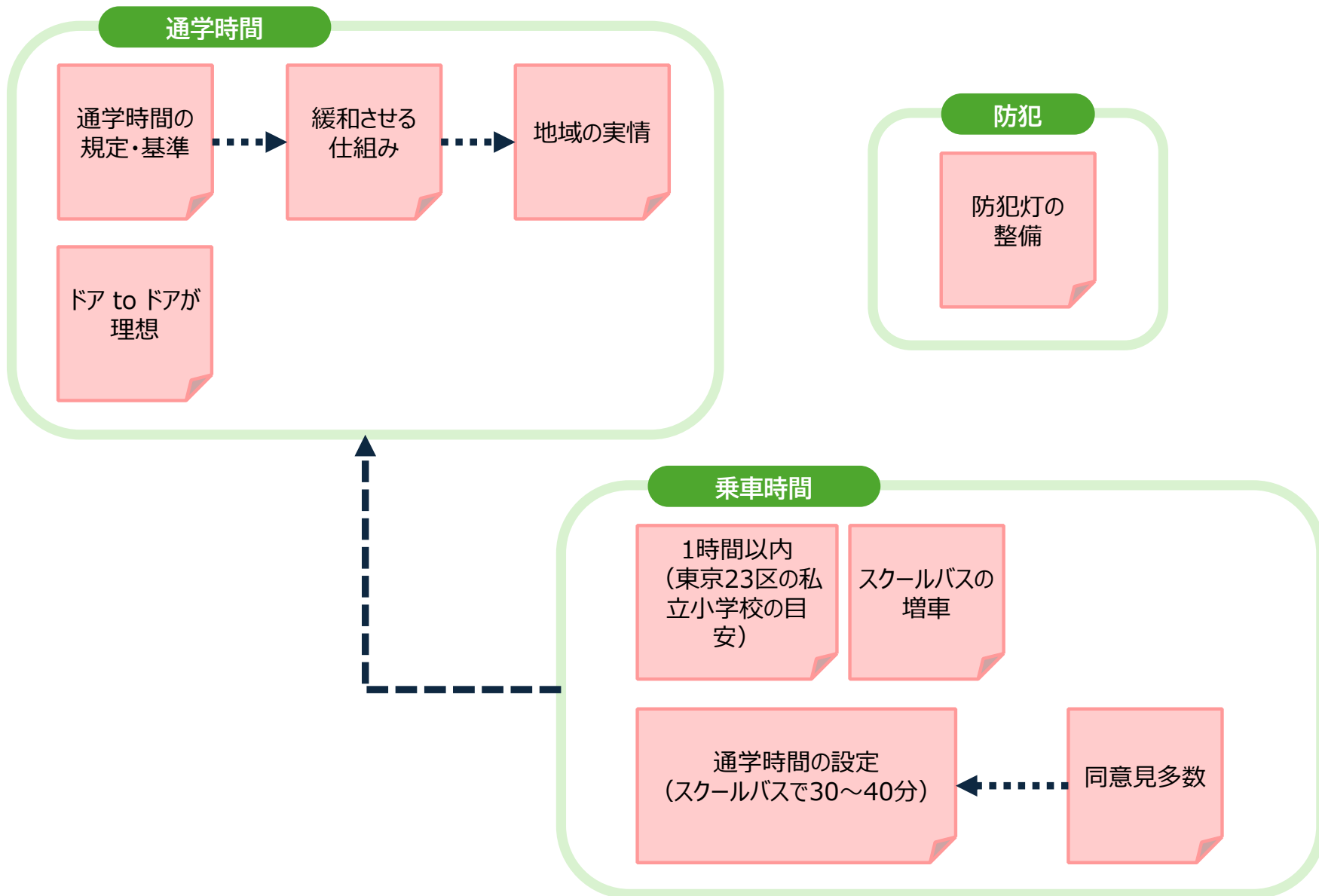
望ましい規模
はない
順番が逆

地域との関わり

地域コミュニティ
(町内会等)
との結びつき

個別に特殊なもの
(踊りや伝統文化)

■ 1班 課題3 通学環境の確保



■ 2班 課題1 多様な主体の意見把握・反映

アンケート

保護者アンケート
保育所、幼稚園

これから自分の子どもが小学校
に入る人のような小さな子ども
のいる人に子育て支援センター
等でもアンケートが必要

アンケートを保育園、幼稚園、
こども園など円単位でとり、園の
中で意見交換、調査をした方
が本心が出やすい

地域アンケート
市民、自治会
等

子どもたちの意見クローム
ブックで選んでもらうように
した方が答えやすいと思う

課題解決

個々の問題の
フォロー
解決の是非

説明会

中学校区や
地域別の
ワークショップ

対話による
場所づくり

定期的な地
域別懇談会
進行状況の
内容等

発信の情報
開示

単位ごとに
開催

今後のモデルケース

結合が決まったら
すぐに学校間の
交流会等を行う
と良い

西小の廃校後の
使い方はモデル
ケースによる

ある程度の段階で
SNSや口伝えで
廃校時期を共有
(西小学校)

広く発信し、卒
業生等、学校訪
問などの時間を
作った方が良い

アンケートや説明
等の後？

■ 2班 課題2 望ましい学校規模と教育環境

学級数

複数学級

2～3のクラス
3の方が良い

クラスに馴染めない子が次の学年で違う子たちと知り合えるようにクラスは2～3クラス欲しい

学校数

手法として、小中一貫校や小規模特認校、後の変更もあり

特認校の
存続

小規模特認校を2つ、それ以外の大きな学校を2つ程度が良い

統合であれば
小中2～3校

網走らしさ

【新たな学校】
網走ならではの授業
(広い意味で)

農業・漁業
未来に向けた授業

クラス人数

1学級
25～35名

個別指導以外
はクラスの人数には
捉われない

1クラスあたり
20人前後程度
が良い

人数が多すぎると
(30人以上) 先生の
目が行き届かなくな
る気がする

学校の形

9年のカリキュラムを一緒に
せず、6・3で呼人のような
「小中学校」が良い

義務教育学校
施設一体型

学校と
児童館

■ 2班 課題3 通学環境の確保

乗車時間

バスは40分
程度

小学校：15分以内
中学校：30分以内

バスは冬場は1時間が限界だと思う
乗車時間が長いと朝も早くなるため、
子どもが大変

吹雪時

除雪状況
と連携

吹雪の時に学校へ行
けなくなることが不安
(交通止め等)

路線

スクールバスの
路線の整備

遠い地域は
直接送迎

地域別
スクールバス

学校位置

学校の位置の
工夫

学校数も大事だと思
うが、住む地域から遠
くなりすぎるのも心配

JR

JRや路線バス
の協力が必要

中継点

中継点を
設けても良い

一番重要だと思う各
地域ごとに細かく調査
する必要があると思う

バス通学のメリッ
トがほしい
(付加価値)

■ 3班 課題1 多様な主体の意見把握・反映

中間報告

学校での
説明会

広報による
中間報告

保護者・子ども・教員との情報共有
(地域住民への状況共有)

SNS発信
・HP
・ライン
・フェイスブック
・メール

発信

あらかじめ、この
資料をすぐー
で流す

今の状況をすぐー
と網走広報などで
随時発信

すぐー活用

子どもへの説明&アンケート

クロームブック
でアンケート

しっかりした
事前説明

目に見える
比較資料

学校の授業の中で
聞いてみる
(クラス会など)

ワークショップ

ワークショップの
開催

学校だけに
任せない

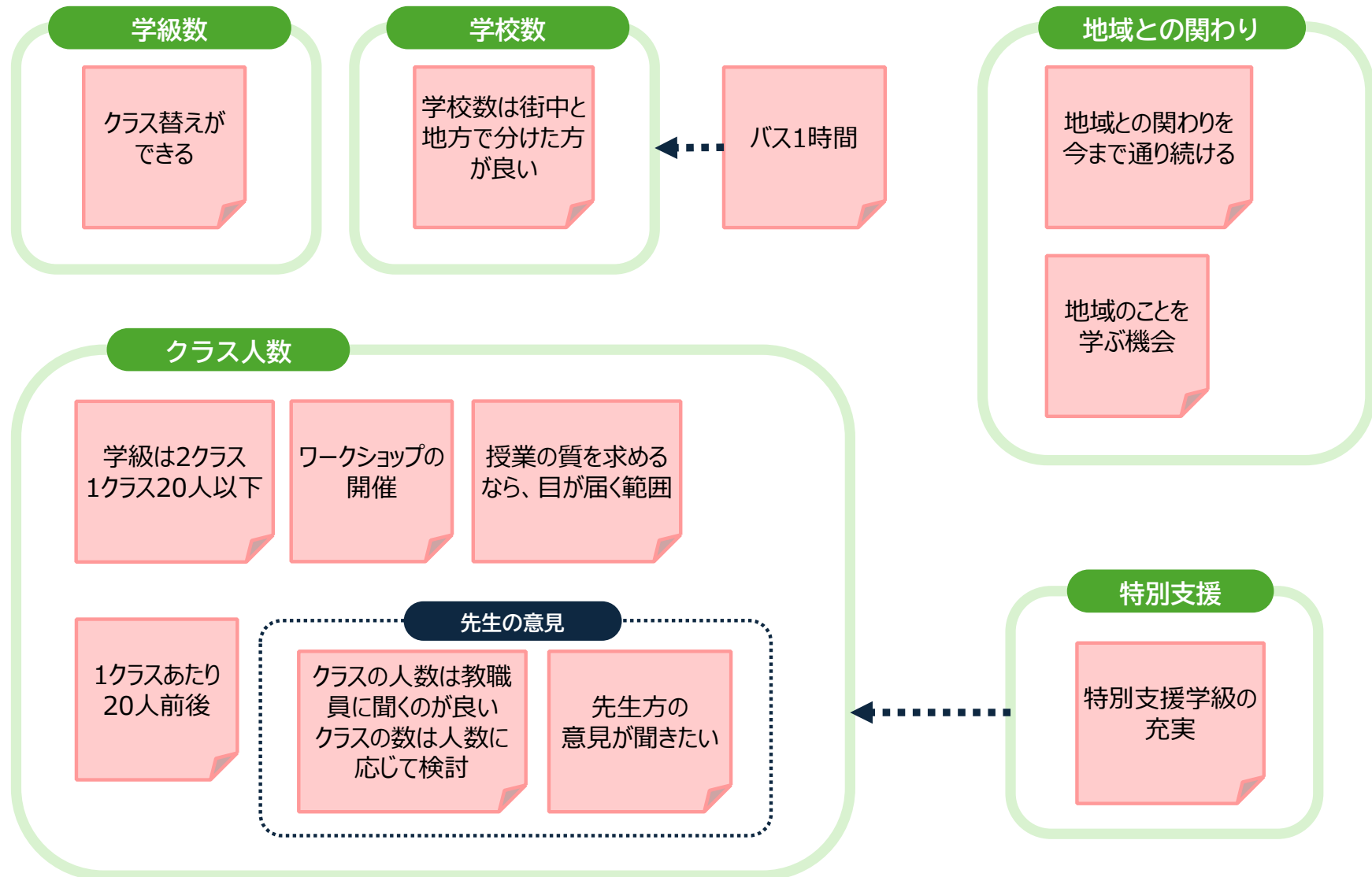
ワークショップ
委員が見学
可能

ファシリテーター
補助

各校代表の話し合い

児童会・生徒会
に聞く

■ 3班 課題2 望ましい学校規模と教育環境



■ 3班 課題3 通学環境の確保

乗車時間

バス：20～30分程度
できれば10～15分以内

1時間以内

低学年を考慮すると
30,40分程度

小学生なら
30～40分

他の市町村の
事例

吹雪時

40分程度
吹雪の際は
オンライン

転校が悪くな
ることが想定さ
れる場合は
オンライン授業

吹雪対策でGPS
除雪業者と連携

通学方法

通学方法が
選べる

路線バスの
利用

現学校集合・
解散で登下校

■ 4班 課題1 多様な主体の意見把握・反映

意見交換

保護者、地域住民の納得、説明は各学校区域で最初にするが良い

年代や立場別の話し合いの場づくり

保護者のワークショップ

細やかな意見交換

発信

教育委員会（市全体）がもっと足や耳を使って動いてほしい

情報発信は直接の説明会

常に情報を提供し、意見を受ける環境にできると良い

発信⇒受信

メリット・デメリット

前向きなメリット・デメリット・対策を広報誌等でしっかり伝える

意見はライン・メール等で

現状把握

満足度の把握

子どもたちの意見の把握

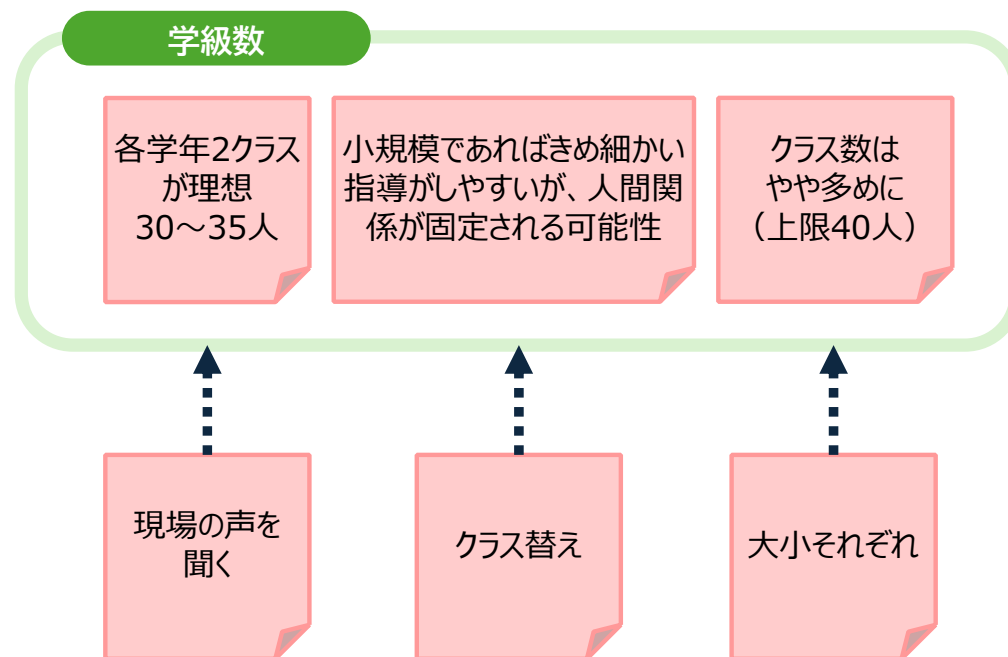
子どもたちにはPCでアンケート要望を取りまとめる（実際は保育園児が対象）

児童による「子ども会議」みたいな話し合いの場づくり

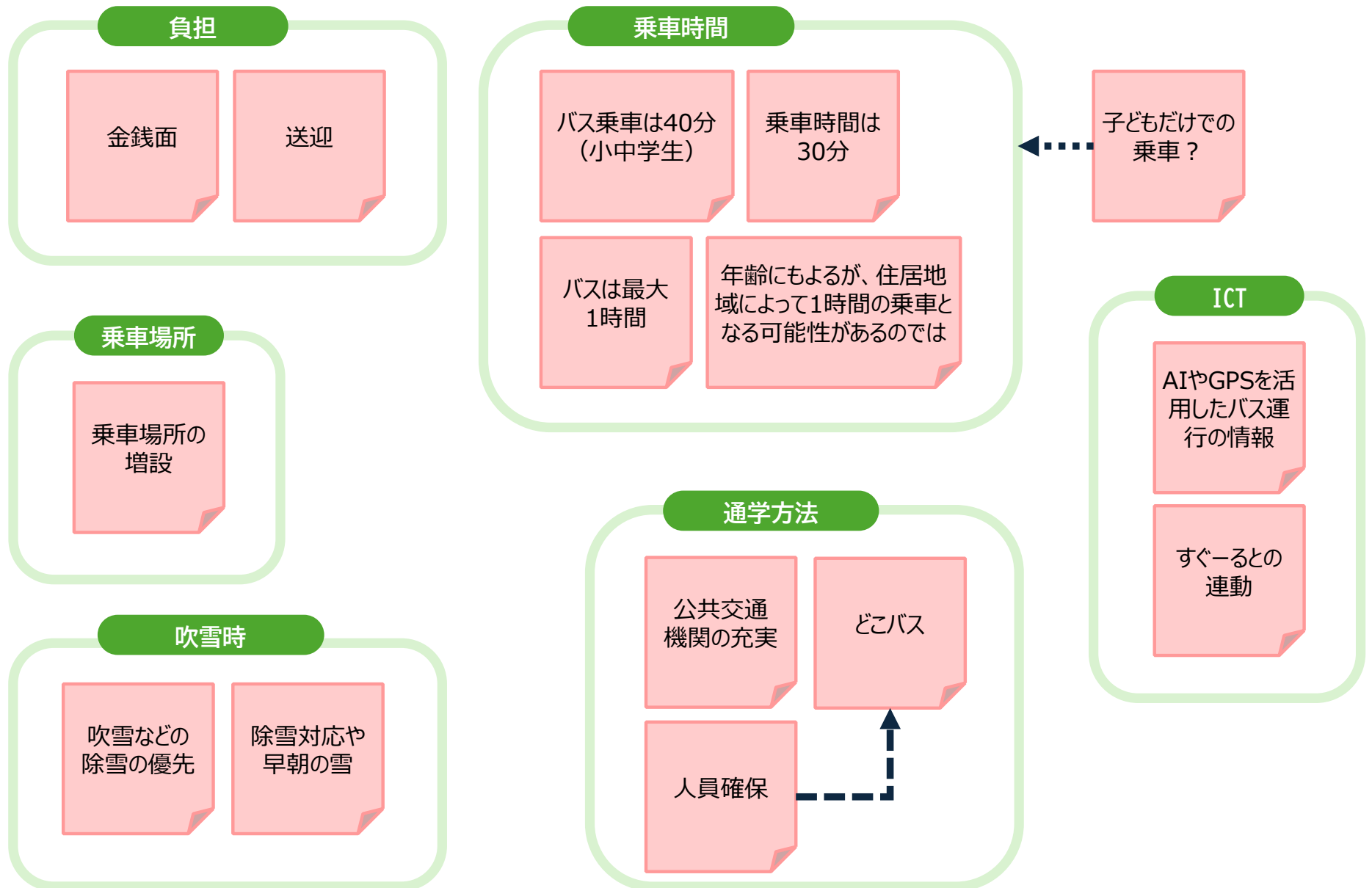
児童会・生徒会・サミット等の題材にしても良いのでは

子どもたちの意見は学校で子どもたちと一番近い担任が聞くと良い

■ 4班 課題2 望ましい学校規模と教育環境



■ 4班 課題3 通学環境の確保



■ 5班 課題1 多様な主体の意見把握・反映

意見交換

地域住民が
反対の場合は
存続

議論の順序を整理
(西小・財政・バス・教
育の質・子どもの負担)

再編を前提とし
た議論をしない

対象別

【保護者】
事前アンケート集計
オープンスクール時で
の意見交換を行う

【子ども】
地域の学習時間を作る
学校でグループ集約

発信

進み具合が
分かる説明

正しい
情報提供

平等な
情報提供
(再編事業費)

SNS
多様な意見
色々な視点

網走らしさ

「網走」で育つ
子どもの共通
する心や土台

「網走」で育つ
とは

ひとつの心を
作っていくことを
イベント化

■ 5班 課題2 望ましい学校規模と教育環境

学校数

各学校において
ビジョンがあるた
め、その良いとこ
ろを活かす

学校数は特認
校を含めて3つ
は少ない

教員数の
確保

学級数

単式学級

クラス替えが重要なのでは
なく、「安心できる人間関
係を継続すること」が重要

クラス人数

1クラス20人
未満

1クラスあたり
の人数は教職
員数によっても
変わる

地域との関わり

地域コミュニティと
の結びつきを重視

数字には見えない学習・学びがある
小規模特認校には地域コミュニティー
防災拠点考えた位置づけ

教育の質

教育の質とクラス
数・学校規模は
関係ない

教育の質
教育方法が
大事

選べる教育の
形

一人ひとりに目
が届く個別指導
が望ましい

学校形態

【大規模校】
地域・家庭との関
係性、行事・会議
に参加しづらい

【小規模校】
学力が高い
いじめが少ない
不登校が少ない

小中より中高一貫
校(特進クラス、給
食提供)の検討

市外への学力
の高い生徒の
流出を防ぐ

■ 5班 課題3 通学環境の確保

乗車時間

バス乗車時間は片道30分以内が望ましい
(乗物酔い、トイレ、学習時間、睡眠時間に影響)

最大1時間以内
低学年は1時間も
厳しいかもしれない

授業開始時間にもよるが、
30分程度が
理想

乗車場所

送迎時の乗
降場所と渋滞
などのリスク

現状でも大きな負担がある
既存のどこバスに学校スクール
時間外の運行・回数券の発行

学校位置

近くに学校が
あることが安心

市内外の学
校を考えない
といけない
現状でも遠い

通学方法

放課後は
どうする

スクールバスの運行
は現実的？

運転手の確保
費用・安全面
子どもの負担

色々な意味で
バスは確保で
きるのか

実現可能性
見立て

通学時間
学校側からの
連絡

悪天候、緊急時

緊急時（災害、悪天
候、急な予定変更）
への対応しやすさ